

ループリックの多面的活用



2016年 9月5日 (月)
高大连携教育研究会

小棹 理子



はじめに

体操—鉄棒 評価はどのように？

DスコアとEスコアの合計

DスコアはDifficulty、演技内容の難しさ

EスコアはExecution、演技実施の完成度

各種目の全ての技はI～Vの5グループに分類、
例えば、鉄棒の技のグループは、下記のとおり

- | | |
|-----|--------------------|
| I | ひねりを伴うまたは伴わない懸垂振動技 |
| II | 手放し技 |
| III | バーに近い技 |
| IV | 大逆手・背面技、バーに対して背面の技 |
| V | 終末技 |



2

はじめに

- Dスコアは難度価値点(DV)、組合せ加点(CV)、要求グループ点(EGR)の合計で算出。
- 難度価値点 (DV)：難度の高い9技と終末技の合わせて10技の価値点の合計点。
同一グループの技は4技まで認められ、同じ技（採点規則における同一枠の技）を繰り返してもDスコアには計上されない。各技の価値点は以下のとおり。

難 度	A	B	C	D	E	F	G
価値点	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7

(以下 略)

3

はじめに

<https://youtu.be/8fSGShN7h9o>

	技名	難度	グループ	価値点	組合せ加点
1.	カッシーナ	G	II	0.7	
2.	シュタルダーとび3/2ひねり片大逆手	D	III	0.4	
3.	アドラーひねり	D	IV	0.4	
4.	体自り大逆手	D	V	0.4	0.1

難度全体の評価：

評価観点（グループ）と評価尺度（難度）

8.	コールマン	F	II	0.6	
9.	後方とび車輪1回ひねり	C	I	0.3	
10.	後方伸身2回宙返り2回ひねり下り	E	V	0.5	
Total:				4.4	0.2

4

はじめに

<https://youtu.be/8fSGShN7h9o>

要求グループ点は、I～IVの各グループの技が含まれ（0.5点×4G）、終末技はD難度以上（0.5点）なので2.5点が与えられる。したがって、

難度価値点	4.4
組合せ加点	0.2
要求グループ点	2.5
Dスコア（合計）	7.1

難度全体評価：
評価観点（グループ）と評価尺度（難度）

5

なぜ 今、大学でルーブリックか？

「大学は、学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする」

（大学設置基準第25条の2）

6

今日の流れ

ルーブリックとは

さまざまなルーブリック

作成と運用のポイント

7

ルーブリックとは

- ルーブリックとは、「学習目標との関係において求められる達成事項の質的な内容を文章表現したもので・・・学習の達成状況レベルを評価するときに使用される評価基準となる・・・学習の実現状況の度合を示す数段階の尺度と、それぞれの尺度にみられる学習の質的な特徴を示した記述語や学習作品から構成される」（辰野ら、教育評価辞典（2006））
- 語源は“rubrica”（ラテン語）。朱書きした礼拝の手順に関する指示や規則、教会や主教の指示を意味する。
- 客観テストでは評価できない、複合的な能力を評価するのに有効。
- 結果だけではなく、プロセスも評価したい際に有効
- 具体的な評価基準を、学習活動前に伝えることで、学習者の活動を方向付けし、目標に到達しやすくする。

8

ルーブリックとは

①課題

	優良	可	不可
証拠のある記述 (20%)	②評価観点	③評価尺度	④評価基準
目標の明示 (20%)			
手法の選択 (20%)			
評価法の選択 (20%)			
論理的思考(10%)			
日本語表現(10%)			

- ① 課題 … 課題の内容を記載
 ② 評価観点 … 当該課題に必要なスキル
 ③ 評価尺度 (scale) … 各スキルのレベルを示す評語
 ④ 評価基準 … 観点と尺度によって規定されるスキルの具体的な記述

9

ルーブリックとは

課題例：レポート「組織内研修の提案」(100pt満点)

あなたが所属している組織（バイト先、サークル、ゼミ等）で、①どのような問題点があり、②その問題点を解決するために、どのような研修を行ったらよいか（目標、手法、評価方法）について提案しなさい。（1600字程度、締め切り：9月15日22:00、Moodleで提出）

	素晴らしい (100%)	惜しい (50%)	残念 (0%)
証拠のある記述 (20pt)	現状分析は、良く観察された客観的データ・記述に基づいている	現状分析は、主観的で断片的なデータ・記述に基づいている	現状分析は証拠に基づいていない
目標の明示 (20pt)	問題解決するための研修について具体的に測定可能な目標が設定されている	問題解決するための研修について目標が設定されているが、あいまいである	問題解決するための研修について目標が設定されていない
手法の選択 (20pt)	問題解決するための研修について具体的に適切な手法が記載されている	問題解決するための研修について手法が記載されているが、具体的にない、適切でない	問題解決するための研修について手法が記載されていない
評価法の選択 (20pt)	目標の達成度を測定するための適切な評価法が記載されている	目標の達成度を測定するための評価法が記載されているが適切でない	目標の達成度を測定するための評価法が記載されていない
論理的思考 (10pt)	論理的な順序で記述されており、読者は内容を容易に理解できる	論理的な順序で記述されていない箇所があり、読者が内容を理解しづらい箇所がある	論理的な順序で組み立てられていないため、読者は内容を理解できない
日本語表現 (10pt)	漢字や文法上の誤りがない	漢字や文法上の誤りが4か所以内である	漢字や文法上の誤りが5か所以上ある

10

ルーブリック導入のメリット

- 公平な評価が可能になる
 - －評価規準と評価基準が明確化される
 - －複数の教員で担当する場合も有効
- 迅速なフィードバックができる
 - －チェック型や○をつけるタイプのルーブリックを活用して採点をスピードアップできる
- 授業改善につながる
 - －学生は達成目標として理解しやすくなる
 - －学生の理解度が把握しやすい

11

さまざまなルーブリック

- ・ 階層別
- ・ 段階のつけかた

教育活動レベル別ルーブリック

- 課題ルーブリック
 - －授業の課題に対応
- 科目ルーブリック
 - －授業科目に対応。授業の到達目標を観点とする。
- カリキュラム・ルーブリック
 - －カリキュラム（到達目標）に対応。学士課程全体を対象とした汎用的なもの、専門教育課程、共通教育課程を対象としたもの、などがある。
- 機関ルーブリック
 - －機関として設定した教育目標に対応。自己点検の際に有効

13

段階の設定による違い

1. 3～5段階ルーブリック
 - －課題に関して、3～5段階のパフォーマンスレベルを記述。はじめて作成する場合に推奨。段階が増えるほど、評価基準に差がつけにくくなる。
 - －経験知（優秀な学生、困った学生のパフォーマンス）から具体的に評価基準を記述
 - －3段階ルーブリックの尺度例
 - 優良・可・不可 優・良・可
 - －4段階ルーブリックの尺度例
 - 優・良・可・不可 秀・優・良・可
 - －5段階ルーブリックの尺度例
 - 秀・優・良・可・不可

14

段階の設定による違い

2. 採点指針ルーブリック
 - －最高レベルのパフォーマンスのみ記述
 - －当該学生への個別フィードバックを記入する欄を設ける
 - －学生に評価基準を自ら思考させたい場合に有効
 - －3～5段階ルーブリックに比べると、採点にかかる時間は長くなる。

15

作成のポイント（注意点）

作成と運用のポイント

1. 学生に、学習前に明示し、理解してもらう。
2. プライバシーを守り、手間をかけずに採点する。
3. ルーブリックを使用しながら、3回ほど改訂を行う。
最初から完璧を求めない。
4. ブラッシュアップを行う（他者に説明して、質問を受ける）
5. モデレーションを行う（複数担当で、採点結果を比較し、修正を行う）
 - － 各教員の評価基準の修正
 - － ルーブリックの修正

17

作成と運用のポイント

1. ルーブリックが向いていない授業や課題は？
 - － 解答結果やプロセスが1つで評価基準が明確なもの、数値化できるものには不要
2. ルーブリックバンクを参考にすることができる
 - － JAEDルーブリックバンク
3. 参考文献
 - － 佐藤浩章監訳「大学教員のためのルーブリック評価入門」玉川大学出版部(2014)